

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
M212S202		小児看護方法論 (Pediatric Nursing Practice I)					小児看護学								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	1	2	医学部看護学科	後期	月3	日本語		複数(共同)							
担当 教員	氏名 幸松美智子・江藤千晴														
	E-mail yukimats@ 内線 5075														
授業の概要	小児期は、ヘルスプロモーション能力の育成において重要な時期である。ヘルスプロモーション能力の育成を支援するために、子どもの成長・発達を身体・運動・言語・認知・社会性といった多方面から捉えて理解を深める。また、その成長、発達に影響を及ぼす外的・内的環境を学習し、子どもの健全育成に必要な支援や親育て(育児)支援のあり方を学ぶ。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	子育て支援に対する(健全な子どもの育成)看護者の責務について述べるができる														
目標2	子どもの身体諸機能の成長・発達・成熟について説明することができる														
目標3	生活習慣病予防に向けた食行動・習慣の獲得支援について説明することができる														
目標4	生活習慣病予防に向けた排泄行動・習慣の獲得支援について説明することができる														
目標5	生活習慣病予防に向けた清潔行動・習慣の獲得支援について説明することができる														
目標6	生活習慣病予防に向けた睡眠行動・習慣の獲得支援について説明することができる														
目標7	子どもの発達を支援する方策(遊びや教育等)について述べるができる														
目標8	養育期の家族が抱える問題について説明することができる														
目標9	養育期の家族の問題を解決する方策について考察し、述べるができる														
目標10	子どもと家族を支える社会システムと看護のコラボレーションについて説明することができる														
各DPへの関連度(計10)							10	10	10	10	10				
授業の内容															
1	子育て支援における看護職の役割と責務														
2	子どもの身体諸機能の成長・成熟(成人の解剖生理と異なる特徴とは)														
3	認知発達理論に基づく子どもの理解と支援の方策														
4	自我発達理論に基づく子どもの理解と支援の方策														
5	子どもの食習慣・食行動の発達とヘルスプロモーション能力の育成としての食事を支援する看護														
6	子どもの排泄習慣・排泄行動とヘルスプロモーション能力の育成としての排泄を支援する看護														
7	子どもの清潔観・清潔行動の発達とヘルスプロモーション能力の育成としての清潔を支援する看護														
8	子どもの睡眠習慣の発達とヘルスプロモーション能力の育成としての規則正しい生活を支援する看護														
9	養育期の家族の現状と課題														
10	養育期の家族を支える看護の実際														
11	子どもと家族を支える法律・制度・施策と看護														
12															
13															
14															
15															
ラ ア ク テ ニ イ グ ブ	A:知識の定着・確認	A:小テスト・アクションレポート				工 夫 そ の 他 の	・動画や実践事例を用い、小児についての理解を深め、子育ての知識・技術を学ぶ ・学生が意見を述べる機会を設ける								
	B:意見の表現・交換	B:発問、グループ検討													
	C:応用志向	C:グループによる事例検討・発表													
	D:知識の活用・創造	:課題レポート(社会改革に向けた提言)													
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修	次回の学習内容について配布するアクションレポートで予習する(11h)。課題レポートの発表に向けた準備(グループでの文献検討や発表準備)を行う(11h)。													
	事後学修	授業で学習した内容に関連したアクションレポーを用いて授業の復習をする(22h)。													
	想定時間合計	22													
教科書	中野綾美【編】:ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学、メディカ出版、2022年 中野綾美(編):ナーシンググラフィカ 小児看護技術 小児看護学、メディカ出版、2022年														
参考書	その都度提示する														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		アクションレポート・課題レポート	20%									
	期末試験	80%										
注意事項	講義で配布されるアクションレポートは次の週の金曜日17時までに提出する											
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	幸松美智子（看護師）江藤千晴（看護師・助産師）											
実務経験を いかした教 育内容	子育て支援を専門とする看護職に必要な保育や保険の現場で聞かれる家族の不安や疑問、どのような支援が求められているかを講義の中に押さえ、子育て支援に必要な知識と技術の修得に役立てる											